

令和5年度 第3四半期 (10月~12月)

景気動向調査結果報告

豊橋商工会議所 ビジネスサポートセンター

全産業業況 DI 値は前回調査から 4.8 ポイント改善、
令和4年度第3四半期からは 13.1 ポイント改善

■全業種概要

全産業の総合判断 DI 値は+0.6 (前期比+4.8、前年同期比+13.1)、来期見通し (1月~3月) については+0.6 (当期比±0.0) となった。

小売業を除く全業種で DI 値が前期比プラスとなり、回復基調にあるとみられる。一方で、原材料価格や人件費の上昇、人手不足が深刻であるとの声も引き続き多く聞かれた。また、ライフスタイルの変化による消費の停滞等、新しい懸念材料も出てきている。

設備投資については、「実施した」との回答が 41.4 (前期比+3.2、前年同期比+6.2)、来期に設備投資を「計画している」との回答は 39.2 (当期比▲2.2) となった。

■製造業

業況 DI 値は+5.4 (前期比+1.2、前年同期比+31.0)、来期の見通しについては+4.1 (当期比▲1.3) となった。

インフラ関連や IT 業界は好調である、食品製造業では値上げに対する理解を得られているとの声があったが、全般的には原材料およびエネルギー価格の高騰が依然収益を圧迫している、人手不足で生産が追い付かない等の声が挙がったほか、海外市況が業況に影響を及ぼしているとの声もあった。

経営上の問題点としては、「原材料価格の上昇」、「需要の停滞」、「人件費の増加」が主に挙げられる。

■建設業

業況 DI 値は▲4.8 (前期比+11.9、前年同期比+17.4)、来期の見通しについては▲4.8 (当期比±0.0) となった。

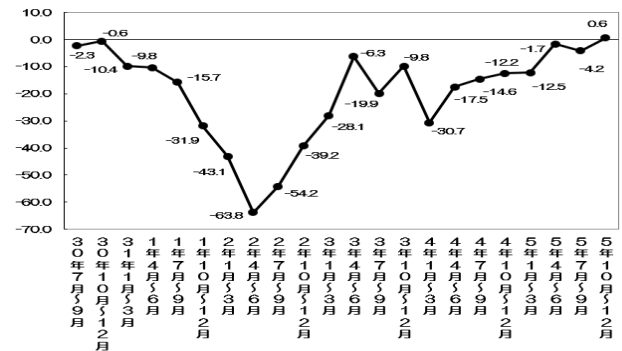
受注が平年並みに戻りつつある、補助金を活用した受注が増えているとの声がある一方で、建築価格の上昇により顧客の設備投資見送りが多いとの指摘もあった。依然として採用難・人手不足も深刻であり、特に技術者や下請業者が不足しているとのことであった。

経営上の問題点としては、「従業員の確保難」、「材料単価の上昇」、「熟練技術者の確保難」が主に挙げられる。

調査概要

- 調査対象
 - (1)対象地区：豊橋市内
 - (2)回答企業数：159社
- 調査期間
令和5年10月~12月
- 調査方法
往復はがき、FAX、Google Form
- 回答企業の内訳
製造業 73・建設業 21・卸売業 17
小売業 16・運輸業 15・サービス業 17

全業種



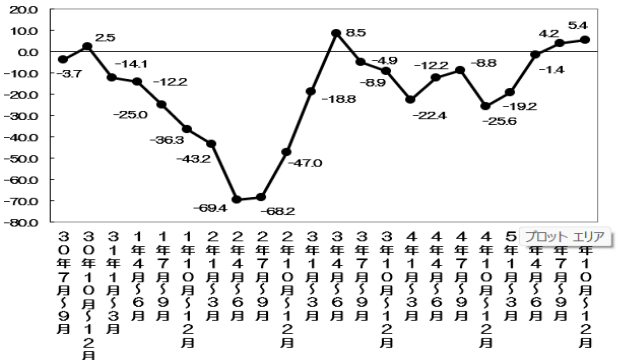
《A》前年同期 (令和4年10月~12月) と比較した景況感

良い	同様	悪い	DI値	↑
27.3%	46.0%	26.7%	0.6%	

《B》来期 (令和6年1月~3月) の景況見通し

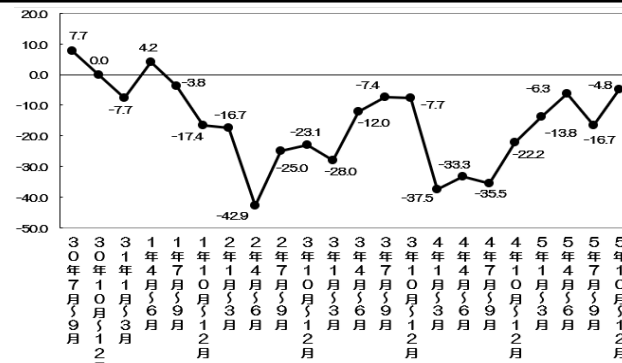
良い	同様	悪い	DI値	→
22.4%	55.9%	21.7%	0.6%	

製造業



【前年同期比】	令和4年10~12月	【来期見通し】	令和6年1~3月
自社の業況	5.4 ↑	自社の業況	4.1 ↓

建設業



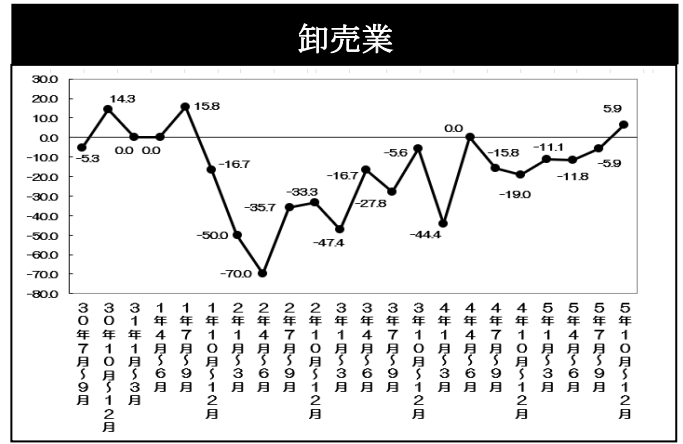
【前年同期比】	令和4年10~12月	【来期見通し】	令和6年1~3月
自社の業況	▲4.8 ↑	自社の業況	▲4.8 →

■卸売業

業況 DI 値は+5.9（前期比+11.8、前年同期比+24.9）、来期の見通しについては±0.0（当期比▲5.9）となった。

宿泊・飲食・イベント関連を中心とした取引先に好転の兆しが見えるなど、明るい声があった。一方で、原材料価格や輸送費の高騰による採算悪化、原材料不足、値上げによる需要の後退、人手不足・採用難、人件費の増加等の懸念材料も多い。

経営上の問題点としては、「仕入価格の上昇」、「従業員の確保難」、「需要の停滞」が主に挙げられる。



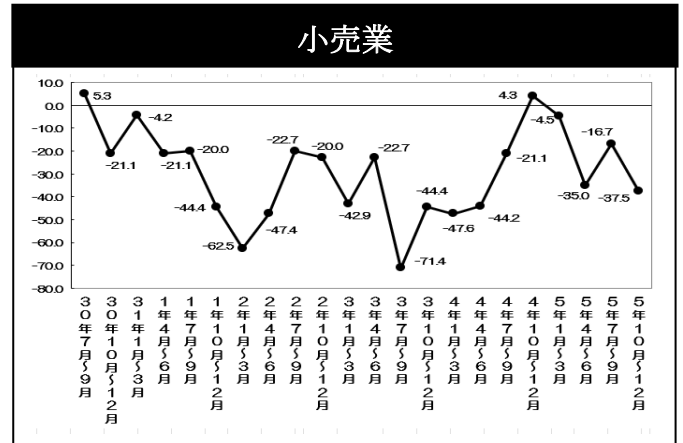
【前年同期比】 令和4年10~12月	【来期見通し】 令和6年1~3月
自社の業況	自社の業況
5.9 ↑	0.0 ↓

■小売業

業況 DI 値は▲37.5（前期比▲20.8、前年同期比▲41.8）、来期の見通しについては▲18.8（当期比+18.7）となった。

一般的に、販売単価上昇の影響で消費者に買い控えの傾向がみられる、客数も売上も減少しているとの声が多かった。コロナが落ち着いても消費の回復が鈍い、外出が増えても購買意欲の高まりにはつながっていないとの指摘もあった。

経営上の問題点としては、「需要の停滞」、「仕入価格の上昇」、「消費者・製品ニーズの変化への対応」が主に挙げられる。



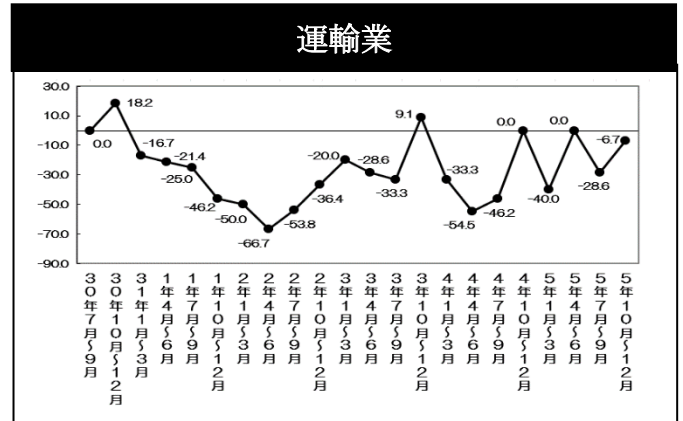
【前年同期比】 令和4年10~12月	【来期見通し】 令和6年1~3月
自社の業況	自社の業況
▲37.5 ↓	▲18.8 ↑

■運輸業

業況 DI 値は▲6.7（前期比+21.9、前年同期比▲6.7）、来期の見通しについては±0.0（当期比+6.7）となった。

得意先に料金改定に応じてもらえた、輸送量が回復しつつある、2024年問題に対して顧客が協力的であるとの明るい声があった。一方で、燃料費等、諸経費が高止まりの様相を呈していることを懸念する声も挙がった。

経営上の問題点としては「人件費以外の経費の増加」、「人件費の増加」、「従業員の確保難」が主に挙げられる。



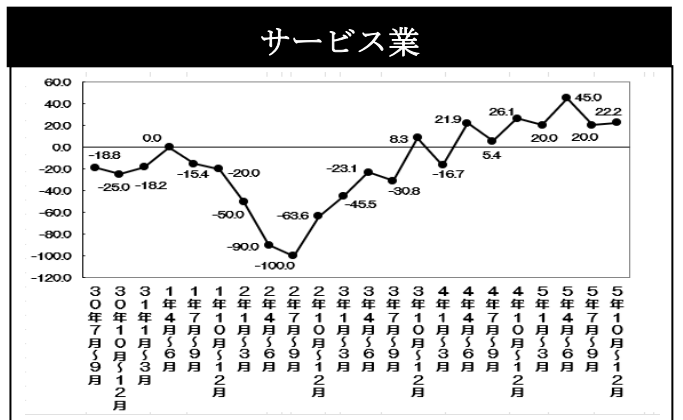
【前年同期比】 令和4年10~12月	【来期見通し】 令和6年1~3月
自社の業況	自社の業況
▲6.7 ↓	0.0 ↑

■サービス業

業況 DI 値は+22.2（前期比+2.2、前年同期比▲3.9）、来期の見通しについては+11.1（当期比▲11.1）となった。

コロナが落ち着いてきたことで、観光業やイベント関連業は好調であった一方、燃料費の高騰や人手不足が深刻であるとの声、回復基調だがコロナ前の水準に及ばないとの声があったほか、ライフスタイルや消費マインドの変化を指摘する声も挙がった。

経営上の問題点としては、「従業員の確保難」、「人件費の増加」、「消費者ニーズの変化への対応」が主に挙げられる。



【前年同期比】 令和4年10~12月	【来期見通し】 令和6年1~3月
自社の業況	自社の業況
22.2 ↓	11.1 ↓